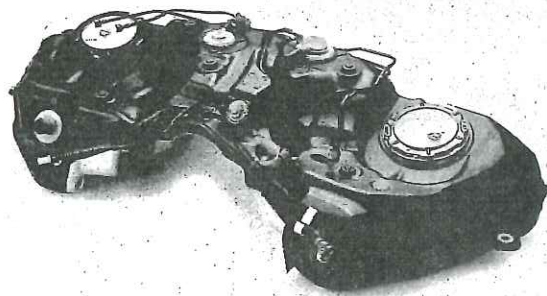


F T S、経営体質強化

F T S (愛知県豊田市、落合宏行社長) が既存製品強化と新分野開拓を本格化する。主力の樹脂燃料タンクで燃費改善などにつながる軽量化を進めるほか、バッテリーケースなどの新製品事業の拡大を目指す。自動車産業の変革に対応すると共に経営体質を強化し、次なる成長につなげる。

(名古屋・山岸渉)
◇◇
「燃料タンクは自動

燃料タンク軽量化



車のプラットフォーム(車台)を決める上で、燃料タンクやワイ

F T Sは樹脂タンクの「深化」とエネルギー系システムサプライヤーとしての「進化」を狙う(樹脂タンク製品)

肝になる製品。落合社長はこう力を込める。F T Sはトヨタ自動車などを取引先とし、燃料タンクやワイ

ラーパープなどを得意とする「燃料系システムサプライヤー」だ。主力の燃料タンクは衝突安全性や操縦安定性などに影響する重要保安部品。強みは開発の上流から入り込み、開発設計や評価、生産などを一貫して手がけられる技術力だ。

エネ制御で新分野開拓

拠点間連携も推進

ク、連携」の三つのキーワードを掲げる。キーワードは燃料系製品で顧客の期待を超え、自分たちの現状を超えるという意味を込める。力を入れるのがH VやP H Vの環境対応や燃費改善につながる軽量化だ。その実現に向け生産技術を磨く方針で、例えば樹脂タンク生産でブロー成形機を自社開発するなど独自の高い取り組みを進める。

一方、電動化の進展を掴む。そして三つ目の「リンク」のキーワードの下、サプライチェーンを含めた拠点間の連携や、デジタルと現場の融合で開発の効率化を目指す。

変革期への対応と共に経営体質の強化も着々と進めてきた。2015年度から比べると2割ほど損益分岐点を下げたという。落合社長は「経営体質は圧倒的に良くはないといけない。(限られた経営資源で効率的に生産する)『限量経営』をより進めたい」と意気込む。

「エネ制御で新分野開拓」のキーワードは燃料系製品で顧客の期待を超え、自分たちの現状を超えるという意味を込める。力を入れるのがH VやP H Vの環境対応や燃費改善につながる軽量化だ。その実現に向け生産技術を磨く方針で、例えば樹脂タンク生産でブロー成形機を自社開発するなど独自の高い取り組みを進める。